

2023年度「書物との出会い イ (近代ヨーロッパと現代)」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) ジェームズ・マクラクラン (野本陽代訳) (2007年) 『ガリレオ・ガリレイ 宗教と科学のはざままで』、大月書店、ISBN : 9784272440436
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 近代科学、実験、数学、天動説、地動説
- (4) 難易度 : 1
- (5) ガリレオが遺したノートに基づく研究の成果もふまえて、当時の時代状況との関係で彼の生涯がわかりやすく解説される。関連する学問の歴史を簡潔に概観したうえで、ガリレオの位置を理解することもできる。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 隠岐さや香 (2018年) 『文系と理系はなぜ分かれたのか』、星海社新書、ISBN : 9784065123843
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 学問の歴史、日本の近代化、イノベーション、ジェンダー、学際化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 日本の多くの高校生が選択を迫られる文系と理系に着目し、その現状を歴史的に分解して解き明かしたうえで、今日のイノベーションやジェンダーの視点から検討が加えられる。学問や大学の歴史、日本の近代化の特徴が要領よく示されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 大沼正則 (1995年) 『技術と労働』、岩波書店、ISBN : 4000036629
- (2) 学問領域 : 技術史、科学史
- (3) キーワード : 自然科学、文明、産業革命、戦争、原爆
- (4) 難易度 : 3
- (5) 人類にとっての技術の意義や技術の発展がもたらす諸矛盾が、人類の起源から今日までを通して、具体的に示される。そもそも技術とは何か、技術と自然科学の関係とは、戦争との関係をどうとらえるか、これらについて考える材料・視点が提供されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) ジェフリ・スカール, ジョン・カロウ (小泉徹訳) (2004年) 『魔女狩り』、岩波書店、ISBN : 9784000270915
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学、歴史学、社会学、法学
- (3) キーワード : 魔法、近代化、ジェンダー、キリスト教
- (4) 難易度 : 1
- (5) 16、17世紀に爆発的に生じた「魔女狩り」。なぜ近代化の過程でこのような狂乱が起きたのか？地域別で見ると状況はどう違うか？どんな人たちが犠牲になったのか？こういった問題について従来の研究成果を総合しつつ、わかりやすく解説してくれる「魔女狩り」入門の良書。ヨーロッパ史への誘いとしても優れている。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 小林道夫 (2006年) 『デカルト入門』、ちくま新書、ISBN : 9784480062932
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学、歴史学 (科学史)
- (3) キーワード : 認識、近代自然観、心身問題、科学哲学
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「cogito ergo sum (私は考える、ゆえに私はある)」で有名なデカルト。この言葉はどういった歴史的な文脈で述べられたのでしょうか。この言葉が近代の自然科学の確立と密接に結びついているということが、この本を読めばよくわかるはずです。デカルト哲学の奥行きを平易な言葉で説明してくれる、最良の入門書です。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 加藤尚武 (2020年) 『環境倫理学のすすめ』、丸善出版株式会社、ISBN : 9874621305867
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学、地球科学、生態学、経済学
- (3) キーワード : 環境倫理学、自然の生存権、世代間倫理、地球全体主義
- (4) 難易度 : 1
- (5) 地球環境問題への対応を哲学的に考察する学問、「環境倫理学」の三つの基本主張を丁寧に解説してくれる本です。興味深いのは、この三つの主張を深く考察していくと、近代で確立され、私たちの前提となっている考え方を突き抜けていく視点が開けてくること。環境倫理学の面白さ、深さに触れることができる一冊。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) オレリア・ミシェル (児玉しおり訳) (2021年) 『黒人と白人の世界史 : 「人種」はいかにつくられてきたか』、明石書店、9784750352305
- (2) 学問領域 : 社会学、歴史学
- (3) キーワード : 大西洋奴隷貿易、奴隷制、人種差別
- (4) 難易度 : 2
- (5) 本書は、近代ヨーロッパが奴隷貿易を始めたのは、アフリカ黒人への人種差別に基づくからではなく、奴隷制と奴隷貿易が人種差別を作り出したという説に基づく。その見解に沿って、奴隷制の歴史をたどり、人種という概念と人種差別がどのように構築されたのかを概説する。
- (6) 推薦者 : 園部裕子 (経済学部)

- (1) チアヌ・アチェベ (栗飯原文子訳) (2013年) 『崩れゆく絆』 光文社、9784334752828
- (2) 学問領域 : 文学、社会学
- (3) キーワード : 植民地支配、人種差別
- (4) 難易度 : 2
- (5) 植民地時代のアフリカ農村を舞台とする物語。宗教とともに外部からもたらされた支配関係がどのように人びとの心を支配し、ありふれた平和な農村生活が社会構造の根底から破壊されたのかを、しずかな筆致で描く名著。
- (6) 推薦者 : 園部裕子 (経済学部)

- (1) 弓削尚子 (2021年) 『はじめての西洋ジェンダー史-家族史からグローバル・ヒストリーまで』 山川出版社、9784634640955
- (2) 学問領域 : 歴史、社会学、ジェンダー
- (3) キーワード : ジェンダー、家族史、女性史、男性史、学問の歴史
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「女らしさ」と「男らしさ」がどのような歴史を経て社会規範として構築されたのか、またその規範はどのように教えられたのかを、学問の歴史とともに検討している。
- (6) 推薦者 : 園部裕子 (経済学部)

- (1) チャールズ・ディケンズ (中川敏訳) (1991 年) 『クリスマス・キャロル』、集英社文庫、ISBN : 9784087520170
- (2) 学問領域 : 文学
- (3) キーワード : 19 世紀イギリス、キリスト教文化、社会問題、教育
- (4) 難易度 : 2
- (5) クリスマス・イヴの一晚で守銭奴の金貸しが改心するまでを描く、19 世紀イギリスを代表する文豪の作品。小説家ディケンズの魅力だけでなく、資本主義やクリスマスなど現代につながるテーマ性も十分。
- (6) 推薦者 : 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 新井潤美 (2016 年) 『魅惑のヴィクトリア朝 : アリスとホームズの英国文化』、NHK 出版新書、ISBN : 9784140884942
- (2) 学問領域 : 文学、文化研究
- (3) キーワード : 19 世紀イギリス、文化研究、社会問題、歴史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 「イギリス」と言われて何を思い浮かべるだろうか? 現代イギリスの基礎の大半は 19 世紀に生まれたと言っても過言ではない。その文化についてシャーロック・ホームズシリーズなどの有名な文学作品を切り口に解説した一冊。
- (6) 推薦者 : 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 坪内逍遙 (2010 年) 『小説神髓』、岩波文庫、700 円+税、ISBN : 9784003100417
- (2) 学問領域 : 文学、国際日本学、近代日本文化
- (3) キーワード : 明治日本文学、近代ヨーロッパ受容
- (4) 難易度 : 3
- (5) 海外の文化を取り入れて、自国の文化を発展させる。21 世紀の現代では自明のことに思えるかもしれないが、実は明治のころからそのような試みは行われていた。「日本独自の小説を作り上げるには何をすべきか」という大きすぎる問題を大真面目に解説した実験作。
- (6) 推薦者 : 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 湯澤規子 (2018 年) 『胃袋の近代 : 食と人びとの日常史』、名古屋大学出版会、ISBN9784815809164
- (2) 学問領域 : 経済史、社会史
- (3) キーワード : 近代化、労働者、都市、日常生活
- (4) 難易度 : 1
- (5) 日本の「近代」とはどのような時代であったのだろうか。「日々食べる」という営みを史実にもとづいて検討することで、人びとの体温と体臭が感じられる「日常史」が描き出される。
- (6) 推薦者 : 水野敦洋

- (1) 武田晴人 (2008 年) 『日本人の経済観念 : 歴史に見る異端と普遍』、岩波現代文庫、ISBN9784006031749
- (2) 学問領域 : 経済史、経営史
- (3) キーワード : 企業観、市場観、労働観
- (4) 難易度 : 2
- (5) 第二次世界大戦後の日本経済は、しばしば欧米型の市場経済とは異質で、独特の性格を持っていると指摘される。しかし、それは本当なのだろうか。本書では経済史の視点から、日本人の経済観念について、その形成過程が検討される。
- (6) 推薦者 : 水野敦洋

- (1) 石井寛治 (2012年) 『日本の産業革命：日清・日露戦争から考える』、講談社学術文庫、ISBN9784062921473
- (2) 学問領域：経済史、産業史、近代日本史
- (3) キーワード：産業革命、日清戦争、日露戦争
- (4) 難易度：2
- (5) 黒船来航を契機として、日本は明治維新という政治的変革、そして「近代化」の歩みを開始した。本書では日本の「産業革命」について、経済史の視点に立ちつつ、日本社会全体の動向と関連づけながら描き出される。
- (6) 推薦者：水野敦洋

- (1) 魯迅 (竹内好訳) (2016年) 『阿Q 正伝・狂人日記 他十二編 (呐喊)』岩波文庫、734円、ISBN : 9784003202524
- (2) 学問領域：文学、社会学
- (3) キーワード：魯迅、呐喊 (とっかん)、近代中国、封建社会、社会変革
- (4) 難易度：1
- (5) 日本でも愛読者の多い魯迅の代表的な短編小説集であり、現実描写とユーモア満載の創作手法は特徴的である。「狂人」、「阿Q」などの人物を描くことによって、近代中国社会の救いがたい病根とは何かを問いかける。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 川島真 (2010年) 『近代国家への模索 1894-1925』(シリーズ中国近現代史②) 岩波新書、929円、ISBN : 9784004312505
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：近代国家、清王朝、辛亥革命、中華民国、割拠
- (4) 難易度：2
- (5) 近代中国は諸列強に侵略される半植民地国家と化した。しかし「近代化」が西欧諸国からアジアに伝わってくる過程において中国の「知識人・有志」は日本と同じように「救国」について悩み、近代化への道を模索していた。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 原田敬一 (2007年) 『日清・日露戦争』(シリーズ日本近現代史③) 岩波新書、886円、ISBN : 9784004310440
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：日清・日露戦争、朝鮮、明治、日本帝国
- (4) 難易度：2
- (5) 近代日本は、日清・日露戦争から始まった戦争によって東アジアを植民地にし、帝国にのし上がった。両戦争は東アジアの新秩序を形成した。日中韓の歴史認識をめぐる対立の原点はそこにあったかもしれない。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 松本健一 (2008年) 『近代アジア精神史の試み』岩波書店 (岩波現代文庫 社会158)、1100円、ISBN : 9784006031589
- (2) 学問領域：社会学、歴史学
- (3) キーワード：アジアの共時性、脱亜入欧、共存共栄
- (4) 難易度：3
- (5) 本書は近代から今日に至るアジア諸国の歩みを精神史の視点からそれぞれの特徴を明らかにした。アジアの近代形成のみならず、今日のアジアの繁栄・競争・対立を正當に評価するために欠かせない視点も提示してくれる。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)